

### 経営(継業)のツボ

### 理念



### 転期に立つ経営者の資質の鍛え方⑦⑩

## 知目行足

早川浩士

有限会社ハヤカワプランニング代表取締役

はやかわ・ひろし

経営コンサルタント。1991年に独立。介護事業に関する独自の調査に基づいたデータ分析を各誌・紙に発表。著書に『早川浩士の常在学場』(簡井書房)、『介護人材創造塾』(簡井書房)、『介護保険改正に勝つ!経営』(年友企画)、『データで徹底分析 介護事業の最新動向と経営展望』(日本医療企画)など。

http://www.hayakawa-planning.com  
ブログ: http://ameblo.jp/hayakawa-planning/

#### 知目行足、もって清涼地に至る

中国・隋代に天台宗を大成した智顛ちぎんの学問と実践に対する姿勢をあらわした「知目行足、もって清涼地に至る」という言葉がある。

知恵の目(知目)とそれに基づいた修行/実践(行足)があつて、初めて清涼な池に象徴される悟りに至ることができるというのが、その意である。

つまり、知恵と修行/実践の両方を兼ね備え、それを目とし、足としなければ、悟りの世界に到達できないという言い方もできる。

仏の道を極める僧侶でさえ、智顛を手本として見習わなければならぬほど知恵と修行・実践のあり方に偏った者が少なくなかったことがうかがわれる。

「知目行足」のことを一般的に置き換えるなら、目で本を読んで知識を得たとしても、それを自らの足で行動に移さなければ何もならないということになるが、「知るはこれ行のはじめ、行はこれ知の成るなり」という「知行合一」の考え方や「言行一致」の行にも通じるものだ。

行くこと、進むこと、行うこと、

振る舞いなどを含んだ「行」は、ぶらぶらと散歩気分ではなく、自らが定めた目的地に向かつてひたすら行き続ける姿なのである。

今夏、独立開業して3年半を迎えた塾生の民家改修型のデイサービスを初めて訪問させていただいた時のこと。

真夏の炎天下、玄関先の庭は雑草がひとつもなく、青々と茂った見事なゴーヤのカーテンが生い茂っていて、他の草木の手入れも行き届いていたのには驚かされた。

聞けば、開設以来、手伝いに足を運んでいる代表の母親の手間隙が投入されていたからだ。

玄関口から中に入らずとも、しっかりと手入れされて生き生きとした庭を見れば、「私たちは手を抜いていません」という無言のメッセージが利用者さんや近隣の人たちに伝わらないはずがない。これも「知目行足」である。

#### 三業の心得

今年、創業時に一度掲げた経営理念を降ろしてしまったというトップが塾に入ってきた。

「私たちがめざすものは日本のこのころです\*」を紹介させていただいた

たところだが、2カ月も経ずして掲げられた「三業の心得」は、磨くに通じる語呂合わせでもある。

一 私たち四季のめぐみは  
御利用者様へ「楽しみ」を提供することを心得ます

二 私たち四季のめぐみは  
介護者様へ「業」を提供することを心得ます

三 私たち四季のめぐみは  
自らも「楽しむ」関わりを創ることを心得ます

「理念」を意識しながらも、今回はあえて「心得」にしたというのが、掲げたなら「行動」に移さなければならぬ。

介護に従事する者として、日々忘れることのないようにとの戒めのつもりで表した「心得」だが、これが当社の「理念」です。胸を張って「三業の心得」が言えるように成長したいと思っています。という代表の意思が伝わってきた。

「論語(雍也6)」には、「これを知る者はこれを好む者に如かず、これを好む者はこれを楽しむ者に如かず」とある。

「知目行足」は、楽しむなければ続かない。

\*1 2007年2月号本誌本欄参照 \*2 2010年10月号本誌本欄参照 \*3 2011年3月号本誌本欄参照